

重点目標	【あいさつと健康・学びで繋がる学校と地域】（校種間連携・地域連携）	P
現 状	・児童と園児の交流は中止したが、職員間の参観交流や幼保小情報交換会、さかき幼稚園と期日・時間等を連携した引渡し訓練が実施。 ・6年生は二中、南中に分かれて交流会を実施、二中では部活動見学会、南中では授業見学とP Aで交流、中学校説明会は書面開催。 ・6月～12月まで月1回児童民生委員と児童であいさつ運動を実施、ラジオ体操やP T A「歩こう会」に保護者や地域の方と一緒に実施。	
具体的な目標	・交流活動の充実を図り、幼稚園・保育所等から小学校への接続、小学校から中学校への接続が一層円滑になるようにする。 ・幼稚園及び小学校の職員同士の研修機会の設定、相互理解を深る。 ・保護者アンケート「学校は地域から学ぶ、地域に貢献する」「学校と家庭・地域との連携」の肯定的評価の割合90%以上を目指す。	
目標達成のための方策	・幼・保・小の連携事業では、新年度入学予定の園児のいる幼稚園・保育所に参加を呼びかけ、児童との交流を実施する。 ・小・中連携では、6年生が進学する二中・南中で授業を参観したり、諸集会等などに参加したりできるように働きかける。 ・心をつなぐ「あいさつ」が具体的なものとなるように、学校運営協議会において取組の在り方を模索し、できることから着手する。	
具体的な取組状況	・今年度は、新型コロナウイルス感染症対策に配慮しながら、幼・小の子供たちができるだけ交流活動を計画し話し合う。（仲よし交流会、焼きいも交流、町探検） ・小中連携は、二中学区に二中、淳南小、四小の3校。南中学区に南中、浅内小、四小の3校。それぞれの進学先の中学1年生と交流を確認した。（年2回） ・学校運営協議会でも承認された「あいさつと健康づくりで繋がる学校と地域」ということで、学校と地域との協働活動に取り組む。	D
達 成 状 況	・児童と園児の交流を再会し、職員同士の保育参観・授業参観も実施できた。また、幼保小情報交換会も有効活用できた。 ・6年生が交流会を実施し、二中とはWeb交流を、南中とは実際の授業等見学と交流を実施して、中学校への進学の思いを高めた。 ・6月～12月まで月初めの朝に児童民生委員の方々とボランティア児童による「あいさつ運動」を実施したり、夏休みのラジオ体操やP T A事業「歩こう会」に保護者や地域の方にも参加していただいたりと、地域の方々と一緒に活動することができた。 ・地域学校協働活動推進の尽力により、2年・3年・5年の生活科や総合的な学習の時間での地域学習を、学習支援ボランティアと一緒に実施することができた。	

自己評価	B	・保護者アンケートの結果は目標値に達しなかったものの、学習を通じて地域の方々とながることができ、児童が地域の一員であることを自覚できた点ことは成果であると考える。 ・同想会からは、児童と共できるに活動を行いたいとの申し出があり、地域連携を促進するためにも進めたいと考えている。	C
------	---	---	---

↑
評価基準
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	A	・コロナ渦であったが、地域と連携することを模索して、できることをやったことが理解できた。 ・見守り隊と連携したあいさつ運動で、地域ぐるみであいさつを行おうとする機運が醸成された。 ・就学前施設と連携した活動や中学校との交流が実施できたことで、つながりと安心を確保することができた。 ・さかき小若の実施により、地域の受け皿としての存在を確認することができた。	C
------------	---	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・児童にとって、地域と関わることで学びの幅が広がることが体感できるように、教科等の学習を通じた地域連携を進めていくように努める。 ・地域連携担当職員を設置して、地域学校協働活動推進員や地域団体との結びつきを強くすると同時に、教職員が主体的に地域連携や学校間連携を促進できるような体制作りに努める。		A
-----------------------	---	--	---